（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	Tomo de coco Fēre　児童発達支援			
○保護者評価実施期間	2025/12/01		～	2025/12/13
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	8	（回答者数）	6
○従業者評価実施期間	2025/12/01		～	2025/12/13
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6	（回答者数）	6
○事業者向け自己評価表作成日	2026/02/21			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小人数制を活かし、こども一人ひとりの特性に応じた支援環境を整えていること。	少人数制の特性を活かし、こども一人ひとりの発達段階や特性、気持ちの状態に合わせた関わりを大切にしている。活動の見通しが持てるよう環境構成や提示方法を工夫し、不安や混乱を軽減しながら、安心して活動に参加できる環境づくりに取り組んでいる。また、生活空間についても、安全面や清潔さに配慮し、こどもが落ち着いて過ごせる空間となるよう日々確認を行っている。	今後も、こどもの成長や集団の変化に応じて環境構成や活動内容を見直し、より分かりやすく、安心して過ごせる支援環境の充実を図っていく。加えて、こども自身が「できた」「やってみたい」と感じられる経験が増えるよう、環境設定や関わり方の工夫を継続していく。
2	職員間の連携を重視し、チームで一貫した支援を行っていること。	支援前後の打ち合わせや日々の記録を通して、こどもの様子や支援内容について職員間で情報共有を行っている。一人の職員だけで判断せず、チームでこどもの姿を捉えることを大切にし、支援の方向性を確認しながら関わる体制づくりを行っている。また、こどもの小さな変化や気づきを共有することで、支援計画に反映できるよう意識している。	今後も振り返りの時間を大切にし、支援内容や関わり方について話し合う機会を継続する。研修や自己研鑽を通じて職員の専門性を高め、より質の高い支援が提供できる体制の強化に取り組んでいく。
3	保育所等と連携し、こどもの生活全体を意識した支援を行っていること。	児童発達支援を午前中に実施し、保育所等との併行利用を行う中で、こどもが日常生活の流れの中で無理なく過ごせるよう配慮した支援を行っている。送迎や情報共有を通じて、保育所等での様子や課題を意識しながら、生活場面につながる支援を心がけている。	今後も保育所等との連携を大切にし、こどもが安心して生活の場へ戻れるよう、移行を見据えた支援や情報共有の充実に努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎形態の都合により、保護者と直接支援内容を伝え合う機会が限られること。	児童発達支援を午前中に実施し、保育所から保育所への送迎を行っているため、保護者と直接お会いして日々の支援内容やこどもの様子を伝える機会が少ない状況がある。	送迎形態を踏まえたうえで、支援内容やこどもの様子が保護者に分かりやすく伝わるよう、情報共有の方法を工夫し、保護者との共通理解の充実を図っていく。
2	支援場面における職員の関わり方について、より丁寧な配慮が求められること。	こどもの状態や気持ちは日々変化するため、場面や状況によっては、職員間で関わり方や声かけに対する意識の差が生じることがある。	児童福祉法等の関係法令および児童発達支援ガイドラインに基づき、研修や日々の振り返りを通して、こどもの気持ちや特性を尊重した関わり方について共通理解を深め、支援の質の向上に努めていく。
3	評価結果や改善の取組内容が、保護者に十分伝わりきらない場合があること。	保護者評価や自己評価を通じて業務改善を行っているものの、その内容や背景が十分に伝わらないことがあり、事業所の取組が見えにくくなる場合がある。	評価結果と改善内容を整理し、ホームページ等を活用して分かりやすく公表することで、事業所の取組や考え方がより伝わるよう工夫していく。